

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400146		
法人名	湧現会社 政経		
事業所名	グループホーム袋井やすらぎの家 1号館		
所在地	静岡県袋井市木原439番地の4		
自己評価作成日	令和2年8月25日	評価結果市町村受理日	令和3年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街に隣接しているが建物は田園地帯にあるため静かな環境です。朝は窓から「富士山が見えた？」の話から、昼は電線に小鳥たちがたくさんとまる様子を楽しそうにみる利用者、そこには雀、鳩、カラス等が来ます。又、時々大きな鳥も飛んでいきます。夕方は西の方に夕焼けを見て「きれいだね～」と一日が終わります。最近は新型コロナや猛暑の為普段より散歩に出られません。その代わりに音楽に合わせてホールを歩きます。1周の人、2周の人、元気に10周する利用者もいます。又、塗り絵、脳トレ、工作等利用者様が楽しんで取り組んでくれるため、職員も利用者様と一緒に楽しんで取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2276400146-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 10月 3 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地近くに立つ3階建ての事業所は、畑に囲まれた静かな環境で見晴らしがよい。事業所開設以来、近隣のお寺の住職や自治会との関わりがあり、利用者の作品発表の場や行事参加など積極的な協力関係を築いている。事業所内には利用者の希望や趣味を活かした作品を飾り、ベテラン職員が中心となり、ユニット(フロア)それぞれが利用者に合わせて活動を模索しながら、落ち着いた環境作りを心掛けている。
コロナ禍において、面会・外出が制限されている中でも、事業所駐車場のベンチでの外気浴や、広い周回廊下を利用してウォーキングを楽しんだり、面会希望の家族に対しては事務所の窓越しでの面談を行うなど、職員が工夫をしながら、利用者が穏やかに楽しく過ごすことができるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、入居者の気持ちに寄り添いながら、穏やかな日々を過ごせる様取り組んでいる。また、1人1人のケアを充実したものにしよう取り組んでいる。	法人の理念は、毎週月曜日に連絡事項と共に各フロアに掲示され、職員が確認することができる。毎朝9時に3ユニット(フロア)合同で朝礼を行い、フロアごとには申し送りノートを利用して、職員同士の情報共有を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方達と触れ合う為、散歩やあいさつに力を入れている。近くのお寺で開催した音楽会や神社や公民館で行われるイベントなど、積極的に参加させていただいている。利用者様が作った手作りの作品をお寺に飾らせて頂き地域の方に楽しんでいただいている。	現在コロナ禍で交流を控えているが、近くのお寺(長命寺)の住職の協力のもと、季節ごとの行事(袋井祭り、敬老会、クリスマス会)やボランティアによる音楽会など、地域の活動に積極的に参加できる関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で自治会役員から認知症に対する質問や施設ではどんな生活をしているか等の質問に対し丁寧にお答えしている。今年度は新型コロナの影響で集まる機会がなく、あまりできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議に出た意見を尊重し、サービス向上に活かしている。今年度は新型コロナの感染拡大防止のため、書面での開催をしているが、意見や質問が無い状況が続いている。	現在、新型コロナ感染防止対応として書面開催となっているが、2か月に1度、開催案内と資料を送り、質問・意見の提出を求めている。運営推進会議委員として、自治会長・副会長、民生委員、中部地域包括支援センター職員の参加を得て、情報交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年1~2回推進会議に参加して頂き、また、市主催の部会や会合に参加し、意見交換をしている。包括支援センター、市役所訪問や電話等で情報交換している。	市主催の介護福祉士研修会(スーパービジョン)への参加や、地域包括支援センターには、運営推進会議議事録を手渡しで届けるなど、常に情報交換できる協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度身体拘束についてのカンファレンスを行っている。また職員は定期的な研修を受けている。	3か月に1回「身体拘束適正化検討委員会」を開催し、情報の共有を図っている。法人は、指針・マニュアルを整備し、定期的に職員研修を実施し、職員が身体拘束をしないケアができるように支援している。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修に加え、フロアカンファレンスも行い、職員間でも注意しあい、虐待行為が無いよう気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修をうけて職員会議で報告し、全職員の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の施設訪問時や契約時に書面と同時に概要説明を行っている。契約解除の際も十分な説明をすると共に、必要時は退去後も相談を受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に第三者機関の苦情相談窓口を明記すると共に、玄関に意見箱を設置し、意見や苦情を聞けるような取り組みを行っている。	毎月の請求書は手渡しを基本として、家族が面会・来訪する機会を設けている。来訪時には積極的に声掛けをして、家族の意見を聴くように努めている。現在コロナ禍の中でも、希望者には、玄関入口事務所を利用し、窓越しで対面の面談ができるように配慮している。	コロナ禍により、家族の面会・来訪機会や運営推進会議への家族の参加が減っている中、家族の意見を聴く仕組みとして、「家族アンケート」の実施を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や計画作成者との会議等で職員間の意見交換をし反映出来るよう努めている。	職員会議は、課題がある都度フロア(ユニット)毎に開催し、申し送りノートなどを活用して、職員の情報共有を図っている。フロアリーダーは、フロアの状況を管理者へ報告し、ホーム全体で共有できるように努めている。法人のエリアマネージャーが定期的に訪問し、職場環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格所有者には資格手当の支給がある。労働時間を守るように本部から強いわれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後からの研修を行っており、市主催の研修等への参加を推奨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業者連絡会や介護保険研究会に参加している。職員は他施設の行事やイベントに参加することで情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面会時に本人との時間を設け、これまでの生活歴・現状況・気持ち等を聞き入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面会時や施設訪問の際に、笑顔で話しやすい雰囲気をつくり、本人や家族の話をしっかりと聞いて、不安や心配な事を拾い出し解決していくための支援をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前からの両者の思いをくみ取り、相談しながらその時の状況の最適な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側の関係性の前に、人と人との繋がりを大切にしながら、一緒に日々を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来設時には、職員との会話も充実なものとして、職員間で共有している。また、電話連絡等も重要なものとしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも家族や知人、近隣の方々との面会や外出することにより、なじみの関係が継続出来るよう支援している。現在コロナの影響で面会の制限をお願いしているが、受付での面会や、タブレットを使ったビデオ通話など工夫して出来るだけ関係が途切れないようにしている。	利用者は、高齢化や長期入居者が多くなっているが、趣味を楽しむ環境作りを心掛けている。同僚の来訪や友人が好物を差し入れたり、来訪・外出を進めてきた。コロナ禍の中でも、希望する家族と引き続き面会できるよう、感染防止対策を取りながら、工夫して対応している。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が1人1人を把握し、入居者間のユニットにこだわる事無く、気の合う方同士とのコミュニケーションも取れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連携を取ったり情報交換等対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話を多く持ち、その方の考えや思いや希望を把握するように努めている。これまでの生活歴や希望を職員間で共有して、ご本人らしい生活が出来るよう努めている。	入居時に「フェイスシート」を利用して、利用者や家族から生活歴を聴き取り、日々の様子を「介護詳細記録」に記載しながら、利用者の状態に合わせた支援を心掛けている。勤続年数の長い職員が多く、申し送りノート・業務日誌などで情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報や入居後の様子、会話、家族からの話等からの情報把握を、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態観察・介護詳細を記録し、申し送りを含めて日々の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の本人の様子や要望、家族関係者との連携も踏まえてカンファレンスを行い作成している。3か月毎にモニタリングも行っている。	法人作成「評価表(モニタリング実践記録表)」を活用して、利用者の目標を確認しながら、日々の支援を心がけている。日頃の様子や変化は、都度カンファレンスにて話し合いを行い、家族へは電話連絡や面会時に丁寧な説明を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・介護詳細・申し送りノート等、職員全員で情報共有し、計画の見直しに活かしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食や知人や家族7との外出など要望になるべく応じている。現在コロナの影響で外食や外出が難しくなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設主催の行事への呼びかけや、学校の福祉体験の受け入れ、近隣の行事への参加と共に、地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族の意向を確認し、馴染みのかかりつけ医の受診継続支援と共に、指定医での受診・往診の体制も整えるようにしている。	入居前からのかかりつけ医や他科の通院は、家族と連携を取りながら対応している。協力医利用者へは、職員が通院で対応している。協力歯科医院により月2～3回訪問があり、治療のほか、口腔ケア指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の定期来設時において、利用者の身体状況について助言、指導をうけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時や入院中の看護師との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書から方針を説明し、本人や家族の意向を聞いている。	重度化した際の対応について、入居時に説明を行い、利用者・家族の意向を確認している。週1回看護師が訪問し、利用者の状態を定期的に確認できる仕組みを整えている。職員は、法人による研修にて、重度化した場合の対応について確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行いマニュアルに基づき落ち着いて対応出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、内1回は夜間想定を行っている。風水害マニュアルも作成し、すぐ観覧できる場所に配置してある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の感情や思いに気を配りながら声掛けをしている。個人的な話は居室や事務所を利用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を沢山し、利用者様も気軽に話が出来るような雰囲気づくりを心掛けている。話を聞くときは真摯に受け止めるよう努めている。自己決定の困難な場合は助言をしながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースや体調に合わせ、その人らしい日々を送れるよう支援するように努めているが、出来ない時もみられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気慣れた洋服や髪型等、本人や家族の気持ちに沿える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付けや、食器拭きを楽しんでいる。現在宅食のみで食事を作る機会がなく、今年度の9月より食事を作る日を月に何日か決め1から利用者様と食事をつくれるように計画している。	日々の食材は2業者から取り寄せて、職員が調理しているが、利用者は盛り付けや片付けを手伝っている。月1回、利用者と共に食事作りをする行事(カレー作りなど)を行い、食事を楽しむ工夫をしている。毎日午後施設内移動販売「お菓子の売店」を行い、利用者はお小遣いで買い物を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分摂取量をチェックしている。個々に合った食事形態の工夫やとろみ剤の使用等をし、安全に摂取出来るよう努めている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科と連携し一人一人本人の能力に応じた口腔ケアを行っている。また訪問歯科による口腔ケアを行っている利用者様もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の能力に沿ったケアを行っている。本人の意思を尊重しトイレでの排泄習慣が付くよう取り組んでいる。	自立支援を目指し、「排泄チェック表」を確認しながら、早めの声掛けを心掛けている。夜間は安全に配慮し、利用者の状態に合わせて、ポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医、家族共育しながら連携をはかり、水分摂取量、日常動作の中の運動にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望日や時間は決まっているが、穏やかにゆっくり入浴できるように努めている。	午後2時～4時、週2回を目途に、入浴時間を設けている。利用者の状態に合わせて、車いす利用者には、シャワー浴で対応することもある。ユニット毎に利用者の希望を聴きながら、入浴を楽しんでもらう工夫を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具類を使用して安眠の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師、職員が利用者一人一人の症状や薬の情報を共有している。服薬時は必ず本人の前で名前、日付、時間を確認し、薬を飲み終わるまで見届けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の手伝い・買い物・掃除等、今までの生活の中でされていた事を、無理なく行えるよう支援している。そして趣味も続けられている。現在買い物に行けていない為、お菓子を施設で買い付け、施設の中での移動販売という形で買い物を楽しんでいただいている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・外気浴・ドライブ・買い物等は日常的に行い、地域のイベントにも、希望に沿って支援している。外出や外食・外泊等も支援している。今年度は新型コロナの影響で散歩以外あまり外出が出来ていない。	利用者や家族の希望にあわせ、外食やお正月・お盆の帰宅を支援している。コロナ禍で外出機会や地域行事への参加は減少しているが、事務所横の駐車場にベンチを置き、折に触れ、積極的に外気浴ができるように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、家族同意のもと所持されている。受診や買い物の際にお金を渡し、本人に支払って頂く事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の許可を得、電話を使用されている。手紙・荷物等は本人に渡しており、郵便物も可能な方は一緒に投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節が感じられるよう花を飾ったり、入居者と共に作った物を掲示している。	共用の居間には利用者の作品を飾り、季節感のある居心地の良い共有空間作りを、ユニット(フロア)毎で工夫している。広い周回廊下があり、室内散歩をしたり、共に洗濯物たたみや掃除を行うなど、利用者個々の状態に合わせて過ごしてもらうことを心掛けている。コロナ禍の中、定期的に天窓を開け、換気にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに3人掛けのソファが2台あり、椅子も所々に置き、それぞれが自由に寛いで頂ける様にしている。本棚もあり自由に利用できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で、使用していた馴染みの生活用品を使用できる旨を伝え、実地している。	ベッド・洗面所・クローゼットが造り付けられた居室は、好みの家具を置き、家族写真を飾り、利用者好みの部屋作りを支援している。利用者と共に掃除を行い、清潔が保たれている。衣替えは家族の協力を得て、季節の変化が感じられるように心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリー・手摺り設置等安全に移動出来る様配慮している。トイレ・浴室は分かりやすい様表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400146		
法人名	湧現会社 政経		
事業所名	グループホーム袋井やすらぎの家 2号館		
所在地	静岡県袋井市木原439番地の4		
自己評価作成日	令和2年8月25日	評価結果市町村受理日	令和3年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/z2/index.php?action_kounyou_detail_022_kani=true&ligvosvoCd=2276400146-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 10月 3 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街に隣接しているが建物は田園地帯にあるため静かな環境です。朝は窓から「富士山が見えた？」の話から、昼は電線に小鳥たちがたくさんとまる様子を楽しそうにみる利用者、そこには雀、鳩、カラス等が来ます。又、時々大きな鳥も飛んでいきます。夕方は西の方に夕焼けを見て「きれいだね～」と一日が終わります。最近は新型コロナや猛暑の為普段より散歩に出られません。その代わりに音楽に合わせてホールを歩きます。1周の人、2周の人、元気に10周する利用者もいます。又、塗り絵、脳トレ、工作等利用者様が楽しんで取り組んでくれるため、職員も利用者様と一緒に楽しんで取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員の目に入る場所に常に掲示し共有に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントやお祭りに参加させて頂いたり、つくった作品を地域の方に見て頂ける機会をつくっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やイベントや散歩などで出会う地域の方との交流によって、理解して頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で担当者や包括支援センターの職員と話をしたり電話等で情報を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、身体拘束適正化検討委委員による話し合い、朝礼や研修を通して、身体拘束について学んでいる。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に話し合いの場をもち虐待について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け職員会議で報告し、向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の施設訪問時や契約時に概要説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族との交流の中で出てきた意見、要望を尊重し、担当者会議に活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士で意見交換しやすい環境を心がけている。すぐに取り入れられる意見はその場で改善している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	朝礼、職員会議棟で改善できるものは取り組んでもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全体が研修を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設を訪問することはなかなかできないが、研修とうで交流の機会をもち活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に不安や心配事をよく聞き、生活歴を配慮して接し、安心した生活が送れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の説明を行い、入所後は困っている事、不安な点、要望などを聞き、場合によっては連絡ノートや手紙を利用している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い、希望や問題点を把握し、それに沿ったサービスを提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個性を尊重し怪我のない楽しい生活や家族の意見を伺い共通の意識を持つように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度は来設して頂けるよう声掛けをしているが、現在新型コロナウイルス感染拡大防止のため思うように面会が出来ていない。窓越しでの面会や電話、手紙を利用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、面会が制限されているが、手紙を書いたり、電話で話したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割をもっていただき、役割を通じて関わりあっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連携支援、情報支援等対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちをくみ取り、反されるようなプラン作りに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家人との会話から、これまでの環境、生活歴、性格など情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何をしたいか、どのような生活を望んでいるのか、どのような事が出来るのかを毎日の生活や本人、家族の話から把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開き、本人の気持ち、家人の気持ち、家人の要望、職員の考え方等を反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護詳細に日々の様子を記録し、情報共有に努めている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各ユニット別々ではなく、全体でのやすらぎの家という意識を持ち施設全体で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や地域の方の協力で祭りや音楽を楽しみにしているが、新型コロナ流行の為現在は行われていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医を利用し、定期的に受診をし連携できるように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の様子や、バイタル、食事量、水分摂取量、排泄等記録し、情報を共有できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	毎日の様子やADL等情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医との連携を図り、家族、職員も含めて、状態の変化について話し合い方針を一つにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の健康状態を把握して、申し送りを密に行い、急変時にはマニュアルに従い、落ち着いて行動できるように常に話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様が主役であり、職員は各自の人格、誇り、プライバシーを損なわないように言葉遣いに注意して支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境や関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様各自の特徴を活かした無理のない各自のペースに合わせて過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選ぶ、身だしなみやおしゃれが出来る環境づくりに努め、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行ったり、盛り付けや片付けと一緒に行うなど、準備から片付けまでを皆で行えるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分量の記録、排泄の状態を共有している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い、口腔内の清潔を心がけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々の力、習慣に応じた声掛けや介護をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量のチェックをし、適度な運動が出来るよう声掛けし支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を言える利用者が少ないので状態を観察し、入浴している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の運動、様子の観察に努めよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について理解し、適切な用法容量を守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や掲示物、花のある生活、なじみのある歌、毎日の生活での家事役割など支援している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染拡大防止のため、場所には気を付けながら、散歩、外気浴などの支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナ感染拡大防止の為、買い物に出る事は控えているが、館内で利用できる買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人の許可ある利用者様は自由に手紙が書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく季節感を出し、不快にならないような環境づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビやソファ、テーブルなど各々自由に移動や利用が出来るような環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品や家具、テレビや音楽プレイヤーなど自由に使っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などの表示、安全な導線など工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400146		
法人名	湧現会社 政経		
事業所名	グループホーム袋井やすらぎの家 3号館		
所在地	静岡県袋井市木原439番地の4		
自己評価作成日	令和2年8月25日	評価結果市町村受理日	令和3年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/z2/index.php?action_kounyou_detail_022_kani=true&ligvosvoCd=2276400146-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 10月 3 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街に隣接しているが建物は田園地帯にあるため静かな環境です。朝は窓から「富士山が見えた？」の話から、昼は電線に小鳥たちがたくさんとまる様子を楽しそうにみる利用者、そこには雀、鳩、カラス等が来ます。又、時々大きな鳥も飛んでいきます。夕方は西の方に夕焼けを見て「きれいだね～」と一日が終わります。最近は新型コロナや猛暑の為普段より散歩に出られません。その代わりに音楽に合わせてホールを歩きます。1周の人、2周の人、元気に10周する利用者もいます。又、塗り絵、脳トレ、工作等利用者様が楽しんで取り組んでくれるため、職員も利用者様と一緒に楽しんで取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「自由にありのままに居心地の良いやすらぎの家」を踏まえて、利用者からのお話をしっかり受け止め、どんな時も笑顔で接することが出来るように心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩では、地域住民の方と挨拶やお話をしている。庭先の花を見せて頂いたり、秋には柿を頂いたりしている。又、祭殿では駐車場に屋台が入ってきて子供たちが踊りを披露してくれます。ここでの子供たちの触れ合いを楽しみにされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営水会議で地域の方に理解して頂けるよう促している。地域のお寺でコンサートを計画された時、利用者様に声を掛けて下さるので、地域の方と一緒に参加させて頂いている。ここで認知症の人たちの日常に触れて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議で意見を尊重しサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で担当者と話をしたり、電話等で空き情報を伝えたりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する社内研修を多くあるため、職員はよく理解している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で共通理解するよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全職員が理解できるように職員会議、勉強会等周知して利用者、家族様に説明できるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時に利用者、家族様の意見を伺い担当者会議等で話し合い反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼で職員間の意見や提案を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	朝礼、職員会議棟で改善できるものは取り組んでもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全体が研修を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設と交流したいが中々実現ができない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安や心配事を受け止め、何度同じことを聞かれても笑顔でお答えし、不安なく安心できる生活を送れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の説明を行い、入所後も不安な点、困っていることが無いが、職員が声を掛けるようにしている。又、家人様が緊張しないで話せる場づくりにも努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に必要な支援と家族が希望する支援を取り入れ、安全で安心な生活を送れるプランをつくれるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個性を尊重し、生活に必要な家事やご本人様のやりたい事などを取り入れ、出来ている事はそのままやっただき、少し手伝うことで出来る事が増える時はその支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	請求書を取りに来ていただいた時や、お小遣いを持って来て頂いた時に、生活状況や家人の意見を伺い共通の意見持つように努力している。又、心配事がある時は常に連絡を取り合えるようなつながりを作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人、親戚等が気軽に来設されている。今年は新型コロナの為、なるべく遠慮して頂いている。どうしてもと希望される親戚の方には基本とされるコロナ対策の下で対応している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションをしたり、ホールでの席を工夫して楽しく生活して頂けるようにしている。又、声掛けも特定の人に偏らず全員に声掛けが出来るように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連携支援、情報支援等対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常に利用者様の会話や動向に留意し、日々安全に楽しく生活して頂ける努力をしている。又、希望や思いを理解できた時には、他職員と共有し良い方向に持っていきけるように話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の入所する以前の情報を把握し、利用者様や家族のお話を聞くことで利用者様が考える普通の生活が送れるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホールでの過ごし方食事の様子、歩き方、話し方、笑顔の量など常に観察して記録する。又、出来ている事、出来そうな事に対しての支援もしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族様との話し合いを行いその意見を反映させた介護計画を立てている。又、職員からは現場ならではの意見やアイデアが出てくるので、介護計画を作る時の参考にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を参考に介護計画に反映させている。又、職員は日々の様子や気づき等をすぐに話してくれるため、今のプランが必要か不必要か選別できる。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズに対しては、素早い対応を心がけている。最近では、食事に関して利用者様から自分で作りたいという意見があり、利用者様が料理を作る日を決めた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加、特に神社の祭りや散歩ごとのお参りを楽しみにしている。またお店も多くあるので買い物支援等暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の意向を尊重して従来の主治医を受診したり納得のいく医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が来設した時に相談して支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は訪院し、家族と連絡を取り合い、経過等を常に把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と連携をはかり、家族、職員も含めて状態の変化について話し合い、方針を一つにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の状態を把握して申し送りを密に行い、急変時にはマニュアルに従い落ち着いて行動ができるように常に話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルはできている。夜間想定 of 訓練、消火器の扱い方の訓練はできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様が主役であり、職員は各自の人格、誇り、プライバシーを損なわないように言葉遣いに注意して支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定がしやすい言葉で声掛けする。普通の会話の中で思いや、希望が自然に出せるような対等の関係づくりに努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先することなく、利用者のペースに合わせた支援を3名の職員で手分けして対応するように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度理美容師に来設してもらい利用者、家族の希望に沿って行っている。身だしなみ等は利用者様にまかせているがその都度様子を見てチェックし援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きから始まり、料理の盛り付け、口腔ケア体操、配膳、今日のメニューを伝える。食後は下膳して頂き、食器洗い、食器拭き、食器片付けまでしてくれます。その都度の声掛け見守りはしている。男性利用者も参加しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と連携を図りながら、食事量、水分量に気を配っている。又、一人一人の好き嫌い等にも配慮し、楽しく食べて頂けるように支援している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	視界と連携を図りながら、毎食後声掛けを行い、口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様各自の排泄チェック表で間隔を把握し、早めにトイレ誘導、声掛けを行い失敗を少なくしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬には頼らないように食物繊維の多い食事に気を配り、水分補給や軽い運動等で医師と連携をはかり取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日と時間は決まっている。浴槽に長く使っていたい方には早めに利用して頂き、希望が叶うよう調節している。又、入浴中歌を唄う利用者様がいると皆歌いだし、楽しい時間にもなっている。安全の為、入浴前のバイタルチェックは必ず行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの今までの習慣に応じて安眠できるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の状態を把握して、与薬時には名前、日付、内服時間を利用者様と一緒に確認し、確実に内服出来るまで見守る支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かし、お手伝いの出来る方にはお願いし、施設内での役割や居場所が確保できるように支援をしている。又、まだやっていないが出来るかもしれない事への支援にも努めている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外気浴、歩行リハビリ等行い、お花見、ドライブ等に出掛け戸外に出れるよう支援している。又、家族と出かけられるのは自由に出来る。今年は新型コロナの為、外気浴と散歩くらいしか実行できていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は事務所で出納帳を作り預かっている。買い物に出掛けた時、お金を使えるようにしている。少人数だが家人の了解のもと居室にお金を置いている利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の代筆や電話は家人の許可があれば自由。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔を保ち、トイレ、居室等は解りやすく工夫している。テレビの音量に気を配り、掲示物は季節感が出るものに変えたり写真を掲示したりしている。利用者の作品を貼り出すと利用者様がとても喜んでている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビやソファ、座布団を敷いた椅子等を置き、好きな場所で自由にくつろいでいただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家人の協力の下で自宅にいたときのように使い慣れ親しんだ家具や配置をしたり、写真立てや花瓶を飾ったりして自宅の延長の雰囲気になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様すべてが見渡せるように職員の配置を皆で考えながら決めている。又、車椅子の方片麻痺のある方たちが周りの人に気を使うことなく自由に動けるような自席を提供している。		